第１７０回　番組審議会

１．日　時　　平成２０年3月5日（水）１２：００～

２．場　所　　メトロポリタン盛岡ＮＥＷ　ＷＩＮＧ　３Ｆ「星雲　東の間」

３．委　員　　委員総数　　１３名

出席委員数　　９名　（欠席委員数　　４名）

〇出席委員（敬称略）　谷口　誠（委員長）

佐尾　玄（副委員長）

（以下５０音順）

斎藤　純

斎藤　雅博

菅原　正二

土樋　靖人

中原　祥皓

村上　幸子

吉田　浩次

〇会社側出席者（７名）　内海　幸司（代表取締役社長）

佐藤　滋樹（常務取締役）

小原　忍（常務取締役）

藤澤　利憲（常務取締役）

前田　秀男（取締役技術局長）

野崎　一裕（めんこいエンタープライズ常務取締役）

吉田　沙織（めんこいエンタープライズ制作部）

〇事務局　後藤　望

４．議　題

『いわて希望大作戦』

～知事から県民の皆さんへのプレゼンテーション～

平成２０年2月２２日（金）１８：５５～１９：２５放送

５．議　事　概　要

今回は『いわて希望大作戦』について審議した。

各委員からは「今までの行政番組とは違う構成が新鮮で、分かりやすくまとめてあった」、「広報番組以外の何物でもない」、「知事との議論の出来る人を出せばもっと内容が深くなった」、「プレゼンテーションが一体どうなったか検証することが、この番組を作った局の使命である」などの意見が出た。

６．議　事

〇事　務　局

ただいまより第１７０回番組審議会を開催いたします。

今回の議題は2月２２日に放送されました『いわて希望大作戦』です。本日は、プロデューサーのめんこいエンタープライズ・野崎常務、ディレクターのめんこいエンタープライズ制作部・吉田沙織が出席しております。

〇谷口委員長

それでは議事に入らせていただきます。野崎さんと吉田さんから、今回の番組の背景などについて、ご説明、ご感想をお願いいたします。

〇野崎プロデューサー

めんこいエンタープライズの野崎です。よろしくお願いいたします。

去年の４月に達増知事が就任いたしました。それまでの岩手県の総合発展計画をベースに新しい地域総合計画、地域経営計画の素案を去年の１２月まで、およそ８カ月間でまとめるということでした。それを受けて去年の１１月、年度内のなるべく早い時期に番組として放送したいという話を受けました。

県の窓口は広聴広報課で、番組化の打ち合わせには政策推進室の職員にも加わっていただ

きました。我々番組制作スタッフとともに１つのチームを作りミーティングを定期的に開きながら、番組の企画を進めてまいりました。ですから、めんこいテレビの自主番組ではなく、県の広報番組の色合いが非常に強い番組になったということが言えると思います。３０分の番組を３回で放送する上で、メリハリを一番意識いたしました。そして県民、視聴者の方にわかりやすく伝えるため、なるべく政治用語とかを使わずに平易な言葉で語ってもらう。それから、アナウンサーがいて、知事がいて、真ん中に花があって、という従来のインタビュースタイルではなく、知事のプレゼンテーションスタイルの番組がいいのではないかということで、新たな試みを取り入れさせていただいたのが今回の『いわて希望大作戦』です。

１回目の放送が総論、２回目がセーフティーネット、子育て、医師不足、福祉全般、そして３回目が今日ご審議いただきます産業振興、産業振興に係る人づくり、物づくり、平泉を中心としました観光事業です。現在、めんこいテレビのホームページからこれまで３回分の番組を、年度内につきストリーミング配信という形でも放送もさせていただいております。

『いわて希望大作戦』のタイトルですが、このところ暗い話題が多いということで、ぜひ希望という言葉を番組の中にどうしても入れたいと考えました。県からは幾つか案が出てきたのですが、希望だけはぜひ入れてくださいということをお願いして、最終的にはこの『いわて希望大作戦』というタイトルに決定いたしました。

それでは、内容につきましてディレクターの吉田からお話をさせていただきます。

〇吉田ディレクター

制作を担当いたしました吉田です。よろしくお願いします。

この番組が、これまでの知事出演の番組と大きく違う点は、知事に自らの言葉でお話しいただくというプレゼンテーション形式を導入させていただいたところです。番組に限らず、人が人へ思いを伝えるときに大切なことは、相手のことを思って、相手の目を見て、自らの中から出てきた言葉で語りかけるということだと思います。人間が思いを伝えるという意味で、今回プレゼンテーションという形式を番組に取り入れることにしました。

知事の政策に対する思いを伝えていただくために、台本構成の打ち合わせにも知事に参加していただいております。番組タイトルも、最終的には知事がお決めになったものです。

番組の１、２回目では知事の公用車にデジカメを持ち込み、同行取材をしたシーンもあります。知事のお考えを色々お聞きできましたし、ふだん見ることができない知事の姿と表情もごらんいただけたと思っています。

この番組では、知事が先頭になって進めていく政策を県民に知ってもらうというのはもちろんですが、岩手は危機に直面してはいるが、乗り越える力を持っている、希望を持っている、ということを伝えることが一番だと思って制作に当たりました。知事が抱いている希望をできるだけ分かりやすく多くの県民に理解していただくために、たくさんの人々の意見を取り入れましたし、分かりやすい言葉でプレゼンテーションしていただいた、と思っております。

今回いただく貴重なご意見を今後の制作の参考にさせていただきたいと思いますので、審議のほどよろしくお願いします。

○谷口委員長

どうもありがとうございました。まず土樋委員からお願いいたします。

○土樋委員

１回目ですが、「スーパーニュース」からテレビを見ていましたら、突然、知事が話し出したという、あの瞬間、まずは驚きました。民放が行政番組を放送する場合、まだ日の高いうちに、アナウンサーと対談形式でやるのがほとんどです。それをプレゼンテーション形式で、しかもゴールデンタイムで放送するというのは大胆な試みだな、とまず感心いたしました。

このような番組は、政策を羅列すると総花的になってつまらなくなってしまいます。そこの兼ね合いみたいなものが非常に難しいのではないかと思います。しかし、この番組は、非常に分かりやすく、野田村のホタテのこととか身近な情景や、金型技術を学ぶ若者の好もしい姿などもあり、興味を持って見られた３０分でした。

そして、自立と共生は地方自治の本旨であると達増知事が話しているところなどは非常にうなずけるものがありました。

程よい加減の番組だったのではないかと思います

○谷口委員長

どうもありがとうございました。次に、斎藤純委員からお願いいたします。

○斎藤純委員

プレゼンテーションを見ているみたいだなと思ったら、それを意図して作られたというこ

とでしたか。その意図は分かりますが、どういう人たちを視聴者対象にしているのかが気になりました。というのは、若い人も対象にすると、ちょっと難しいかなと思いました。達増知事は記者会見のとき、すごく分かりやすい言葉で伝える人ではありますけれども、言葉遣いのほかにもっと分かりやすく平穏に伝えることはできないかなと思いました。

プレゼンテーションスタイルは成功している。けれども、やっぱりまだまだ難しいなと思いました。だから、どういう人たちに見てほしいと思って作ったのか、もっと多くの人に見てもらいたいというのであれば、やり方が違うんじゃないかなというのが印象です。

それから、岩手大学の学長が出てきましたけれども、ここは県立大学の学長ではないのかな、と思いつつ見ていました。

僕はへそ曲がりですから、広報番組と言えばそうなのですけれども、「何だ、御用番組じゃないか」と、それが最後まで見終わったときの感想です。番組内でディベートが少しでもあれば、もうちょっと締まったかな、と考えます。もちろん現場の様子を伝える映像ありましたが、ディベートとかがないと口当たりの良さだけが残ります。それは広報番組だからしようがないと言えばしようがないのかもしれませんが。

僕は、達増知事のやっていること、例えば芸術文化振興条例など、すごくいいなと思い応援しています。でも、競馬は南部藩の馬事文化だから守るとおっしゃっていることは「ちょっと違いますよ」と、どなたかちゃんと言ってあげたほうがいいと思います。競馬というのは、戦後に入ってきたイギリスの文化であって、義経のころから続いている南部藩の馬事文化とは全く関係ないわけです。競馬を南部藩の馬事文化と言われたら本当の南部藩の馬事文化が泣きます。

〇谷口委員長

どうもありがとうございました。ちょっとコメントさせていただきます。岩手県立大は県の予算を使っている大学です。なぜ岩手県の人材育成のときに大学の名前が出てこないか、学生のみならず、見た人たちは疑問を持つと思います。

次は、菅原委員からお願いいたします。

〇菅原委員

これは随分と真面目におめでたい番組をつくったなと思ったのが私の感想です。それ以上でもそれ以下でもない。なぜなら広報ですから。広報というものはああいうもので、よく市

役所から配られてくるパンフなんかもそうですが、本当の問題点はマスキングされています。１回目、２回目を見ていないので、３回目だけを見て言うのもなんですが、少し脳天気だなという感じは否めないと思います。フジテレビ系のテレビ局ですから、ちょっとひねり玉を少し欲しいな、あれじゃおめでた過ぎるんじゃないかなと思って、ちょっと私はあきれました。以上です。

〇谷口委員長

どうもありがとうございました。次に、斎藤雅博委員からお願いいたします。

〇斎藤雅博委員

ちょっと否定的な意見も出たようですけれども、私は基本的に非常にいい番組だったと思います。知事が県政の基本的な考え方とか戦略をメディアを通じてプレゼンテーションという形でやったのは恐らく初めてだと思います。非常によい企画、試みであると感じました。

岩手県の色々な計画を読もうとしたらすごい分厚い資料で、行政の方はもちろん読むと思いますけれども、一般の方はなかなか読まないと思います。ということは全然理解されていない。それをプレゼンテーションという形でやったというのは、前進じゃないかと思います。内容については色々と意見はあろうかと思いますけれども、多少なりとも考え方が理解できたのではないかと思います。

岩手ブランドの発信ということで野田村のホタテ生産を挙げていました。実は先日、県北でのある会合で、たまたまそれを見ていた人が、「県北にも非常にいい農産物があるのだが、方法が分からなかった。あの番組は結構ヒントになった」と言っていました。見てヒントになるということでは非常に良かったと思います。

それから、人材育成では、宮古高等技術専門校という学校があるということを知らない人もたくさんいるんじゃないかと思いました。

観光面でも世界遺産登録に向けた通訳案内士、これから裏方として頑張っていく、そういう姿もクローズアップされていて非常に良かった。

少なくとも内容的にバランスは良かったと思います。しかも、ＶＴＲとかインタビューも適度に挿入されていて、見るほうとしてはそんなに飽きずに見ることができました。

ただ、川口さんという通訳案内士がスタジオでいきなり話し始めましたが、唐突に感じました。むしろ金色堂を実際に撮影しているところで一緒に説明してもらったほうが流れとし

ては自然だと思います。それからメッセージということで岩手大学の平山学長ほかからありましたが、何かちょっと中途半端な気がしました。テーマに対してメッセージを送るのでしたら、もうちょっとしっかりした内容でメッセージを寄せてほしかったし、何かちょっと中途半端な感じを受けました。

それから、知事は最後に自立と共生ということを言っていましたけれども、そういうキャッチフレーズ的なことを番組でインプットさせていくというのは実は重要なことではないかと思いました。ただ、知事は、普段より表情が硬かったような気がします。それから、せっかくのプレゼンなので、例えばジェスチャーを交えるとかしたなら、メリハリ感が出たのではないかなと思いました。

最後の場面で岩手で叶えたい夢を色々な人が話していました。岩手には力がある、それから希望がある、という形で締めていました。ある種そう信じることの出来る部分があった番組ではないかなと思いました。

〇谷口委員長

どうもありがとうございました。次に、中原委員からお願いいたします。

〇中原委員

色々な苦言の部分は私も同感ですので、重複しません。県が取り組みたい、あるいは取り組まなければならない課題がすごくあり過ぎますが、それをクローズアップさせた番組としては評価できると思います。ただ、余り数が多いので印象として残らなかったということもあります。メモをして聞いていれば別でしょうが、余りにもたくさんあり過ぎるから、さて何が岩手にとって希望あるテーマなのかなと思うと、ほとんど希望が見えなかったという人もおりました。危機の中にも希望がある、その危機の部分は、私としても、計画なるものを読み、ある程度は分かっていました。ただ、どういう人を対象にということになると、自分のレベルで考えて、あるいは県のレベルで考えてやってしまうと、見る人が分からくなってしまいます。数段落とした目線で見るというようなことを心がけないとなかなか分かってもらえないという思いがしました。県はとにかく何でもかんでも知ってもらいたいという意欲がありますので、作る側がどのように抑えてやっていくかというのが問われるのではないか思います。

それから、３０分番組にこれだけ多いテーマが出てくると、達増知事も早口にならざるを

得ない。もともと早口のようですが、見ているほうも何かせっつかれるような印象がありました。それから、立っている姿勢が非常に多かったという印象が番組を硬くしているのではないかとも感じました。私も、話をするときに横を向いたり、ちょっと歩いたり、それからジェスチャーを入れたりしますが、そういうことがもっと欲しかったという思いがしました。テレビという映像の力で、もっと知事の人間性というか、そういうものを拾い出して欲しかった。

それから、人材育成ということですが、岩手に５大学があるのに、１つの大学だけということはなかろうと思います。たまたま岩手大学であったのか説明がちょっと欲しかったと思います。

そして、分かりやすくということで、活字がどんどん画面に出るのですが、僕には、読もうとしても読み切れない活字がいっぱい出てきたような気がしました。

県の広報ということは、ともかくとして、見る人に分かってもらいたいということになりますと、なかなか難しいとは思いますが、民放の特性を大いに発揮して、娯楽性をもっと出しても良かった。プレゼンテーションという試みは、次からはどのように展開していくかという楽しみの一つになりました。

○谷口委員長

どうもありがとうございました。次に、村上委員からお願いいたします。

○村上委員

全体を見て、まず非常にスマートな作りだなという印象を持ちました。前知事の場合は「いわてグラフ」というグラフ誌とか、「イパング」という雑誌で知事が著名人とインタビューするものが特集になったりとか、そういう紙の媒体を使ってイメージ作りをされていたように思います。この番組を拝見して、「いわてグラフ」とか「イパング」の映像版というような印象がありました。

こういう映像を使ったイメージ重視の伝え方、こういう手法も大事な時代ではないのかなと思いました。宮崎県知事とか、大阪府知事とか、パーソナルな部分でアピールしているのが毎日のようにテレビで見られますので、それに対抗している部分もあるのかなと半分思いましたが、その辺は非常に真面目にお出になっているなと感じました。

岩手の危機を希望に変えるということは、本当に大事な問題だと思います。それでも、私

としては山形の銀山温泉のおかみさんが、「知事というものはおかみさんと同じように一生懸命ＰＲするのが仕事ですよ」というようなことをおっしゃっていましたが、県の知事に求められているものというのはそういうものなのかなと、むしろこっちのほうがすごく印象的でした。行政の長でもあるが、県のＰＲマンであることを求められている、なるほどなと納得をした部分です。

今までの県政番組ですとか行政の番組とは全然違う毛色で、すごいインパクトがあったと思います。ただ、内容が非常にまじめな部分をどうしてもキープしなければならないというところがあり、話だけでも文字だけでも追い切れなく、厳しい部分があったと思います。その場合、例えばネットで知事のコメントは毎日でも更新できますから、媒体の使い分けで工夫していけば良いと思います。紙媒体とネットで伝える部分、それに映像のインパクトで伝える部分をこれから探っていく時代なのかなと考えます。

ラストのシーンで「希望」というボードを持って人々が並びました。あれは県立美術館の階段ですよね。広々としていて、「希望」というボードをみんなで掲げるには、あの空間はすごく良かったなと思いました。

あと、「希望」という題字ですが、岩手の天才少年書家と言われている子が書いたものだと思うのですが、１回目、２回目で紹介あったかどうか確認しておりませんが、ちょっと紹介してもらえると、ますます「希望」という意味が広がったのではないかなと思いました。

〇谷口委員長

どうもありがとうございました。次に、吉田委員からお願いいたします。

〇吉田委員

番組審議会で数々の番組を見てきましたが、個人的にはこれだけ印象の強かった番組はありませんでした。何回も見まして、それだけ見たいという欲求もありました。私だけでではなく、３０代の人間にも見せて感想も聞きました。

番組を通じまして３点感じたことがありました。１つ目は、何しろ分かりやすかった。これは素晴らしいというのがまず第一印象です。

２つ目は、大変爽やかな達増知事のイメージがますます良くなったと印象を受けました。あれだけ行政の難しい施策を県民の皆様に分かりやすくまとめられた。表現力、これも非常に素晴らしいと思いました

それから、３つ目に感じましたのは、この番組のタイムリーさです。世界遺産登録という絶好のタイミングのときにこういうものを取り上げたというところにその意味がありました。

申し上げたいのは、何度も見たという意味は、例えば当社の場合何千人も働いているわけですけれども、いかに物事を末端に伝えるかというときに、手法としてこれは大事なことだなとその組み立て方について、この番組にはヒントがたくさん含まれていたことです。

それから、組織のリーダーのあるべき姿を映し出しているという印象を受けました。

何人かの人に社内で『いわて希望大作戦』を見たかと聞いたら、ほとんど見ていませんでした。この放送時間には、私も働いていますから、私も見ていません。すごくもったいない。だから、どうやって内容の濃い良い番組をたくさんの人たちに見ていただくか、これをもう少し考える必要があるのではないかと、非常にそれを強く感じました。

それから、もう一つ感じたのは、やっぱり今時代の中で非常に重要なことは、プレゼンテーションの力が、すごく大事だなと感じました。そういう意味では、今回の番組は、私はプロデューサーの力にあったと思います。プロデューサーの力が、かなりここには発揮されているなと思いました。県は、堅苦しいことを言ってきていると勝手に思いますが、恐らくプロデューサーのほうであれだけ丸く収めたのだろうと思います。

この番組を見ておりますと、アメリカの大統領選のオバマ氏のことではないのですけれども、プレゼンテーション力、表現力が、いかにリーダーに求められるものかということをつくづく重ね合わせて見ておりました。

〇谷口委員長

ありがとうございました。では、佐尾副委員長からお願いいたします。

〇佐尾副委員長

この番組は、タイトルのように『いわて希望大作戦』、それから「知事から県民の皆さんへのプレゼンテーション」ということで、もともと民放テレビ制作の自主性というよりは、県の広報番組の色が強くならざるを得ないという宿命を引き受けたということだと思います。だから、逆に言うと、その中で民放としてどのように制作していくかが、今回の新たな課題として捕らえるべきではないか。

知事自身のプレゼンテーションという面がさらに県の広報色を強くしていますので、それに対抗できるコーディネーターが場面に出てきて聞き出していくというやり方もあったので

はないかと思いました。

知事の抱いている希望というのは視聴者には伝わったと思います。しかし、希望は非常にスマートに表現されていましたが、現実は岩手県には厳しい課題があります。例えば県民所得というのは２３６万でワーストテン、あるいは有効求人倍率が１月は０．６９で全国３８位、そういう厳しい課題があるわけです。それを具体的に県民とともに知事が額に汗してともに苦労して努力して、この課題をどう克服するか、その決意がもう少し伝わってきたのであれば、広報色が薄まったのではないでしょうか。そこに民放テレビでの制作のヒントがあるのではないかなと私は感じました。

〇谷口委員長

どうもありがとうございました。では次に、きょうご欠席の委員からコメントなり質問なりが出ておりましたらご紹介ください。

〇事　務　局

東海林委員、役重委員、久慈委員から届いております。

〇東海林委員レポート

ＶＴＲを見ながら「１回目と２回目は、いつの間にやったんだろう」とつぶやいたら、隣で宿題をやっていた５年生の長男が「CMでやっていたよ」と返してきました。せっかくの知事の表明なら見たかったのにと思い、オンエアの日時を見ると、金曜日のゴールデンタイム。なぜ家では見ていなかったかというと、その時間は子供が楽しみにしている他局のバラエティ番組の時間でした。

知事のプレゼンがバラエティ寄りになる必要は決してありませんが、テレビというメディアを使う以上、３０分間、県民が飽きずにテレビの前にいる工夫が絶対必要と思います。使われている映像はどれも美しく、岩手ってきれいだなと思う反面、タレントではない知事が真正面を常に向いて原稿を読む進行が、時につらく感じました。いっそ「タッソ君」というバーチャル知事が番組を進行し、県民に問いかけるというのはいかがでしょう。

タイトルはいい。見たいと思わせるタイトルです。ただ、内容としては、県民みんなで取り組んでいきましょう！というものなのか、知事の所信表明なのかが、今ひとつ分かりにくく感じました。何か私たちもやらなきゃ！と思わせてくれるものを知事に期待しています。

岩手に石油が出た！なんてことになれば、日本のドバイとして地方税でも観光面でも、豊かになるのでしょうが、岩手にとっての石油は、県民ひとりひとりのやる気にかかっているのでしょうね。

〇役重委員レポート

全体に、良くできた小学校の授業の１コマを見ているような気がしました。まずは導入部で前回、前々回の授業の復習をざっとして、生徒に今までの流れを思い出させる。そしておもむろに、本日のテーマを示し、今日に授業で学ぶべきことは何かを明確化する。中身に入れば、各種教材、ＶＴＲ、ゲストスピーカー等々、生徒の興味、関心を引く素材を並べて見せつつ学びの主題に迫る。終盤では、今日の授業を総括し、学びの内容を振り返るとともに、次の時間のテーマを予告。という感じですね。

この構成は、とても分かりやすくて良い一方、良くできた授業にありがちな物足りなさもある気がします。まず、教壇に立っている知事の表情が乏しい。視線が定まっていないというか、まっすぐに生徒の目を捉えていない。マニュアルどおりこなしている無難さはあっても、たとえちょっとはみ出そうが間違おうが、何としても生徒に分からせよう、相手を説得しようという情熱がいまいち感じられない。これは、本人のキャラクターや演技力のせいといってしまえばそれまでですが、むしろ演出やシナリオの責任もあるのではと思うのです。せっかくだったら、もう少しはみ出してやらせてあげたらどうだったのでしょう。どこかでコケるとか失敗するとか、あるいは怒るとか慌てるとか。先生が思わぬ失敗をしたり、話が脱線したりすると子供たちは大いに喜び、むしろそういう授業の方が思い出に残るものです。

内容は短時間に濃密なエッセンスを盛り込んだもので、とても示唆に富んでいたと思います。特に中村アドバイザーの言葉「岩手には良い素材がたくさんあるのに活かしきれない。社会や時代が変われば人も変わり、販売流通も変わらなければならない」。これは岩手の得意とするモノづくり、一次産業と二次・三次産業の融合を説いていると思います。地元産業密着型のエンジニア育成、「国際」の視野から平泉をとらえる「地域限定型通訳案内士」など、目の付け所がいいなと思いました。中国人観光客の方のコメントは、吹き替えではなく生の声にテロップで流したほうが臨場感がありますね。

いずれにせよ「希望王国」というタイトルは、逆にいかにも「希望ない岩手」「絶望的な岩手」を想起させる気がして最初は腰が引けましたが、見終わって、むしろそのリスクも気にせず堂々とこのタイトルを冠した、番組の「意気」を感じました。

ちなみに、昨日の県議会で知事は東国原知事の向こうを張り、「まんず、なんじょかすべ」と岩手弁をアピールしたそうです。次回は方言でしゃべらせてもいいかも知れませんね。

○久慈委員レポート

「いわて希望大作戦」を見させていただきました。まず最初に感じたのは、行政の番組なのに、行政の番組に見えない、凝った作り方だと思いました。今までの行政番組は見ていてもあまり面白くないものが多かったので、このような番組の作り方にすれば、若い世代も見やすくて良いのではないでしょうか。新聞などでは知事の方針が分かりにくい、と表現されていますが、この番組を見れば、非常に分かりやすく解説してますし、映像やメッセージも分かりやすいので良かったのではないでしょうか。

最後のシーンで民間の皆さんのコメントがたくさん出ていました。あれはとても良かったので、最後だけ放送するのはもったいないような気がしました。CMに行く前とCM明けに２～３人のコメントを入れてから番組を始めれば、もっと「希望」というキーワードが浸透できたような気がします。それに一般の方々を多く出すことで、若い世代も番組を見るようになると思います。いずれにせよ、行政番組らしくないところが素晴らしい番組でした。

○谷口委員長

ありがとうございました。色々な意見がありましたが、民間放送が一つの県の広報を取り上げられたというのは、非常にユニークなイニシアチブを取られたと思います。これはとても難しいことです。私からいえば、やはり民放がやられる場合は、県の広報を使いながら、そこに民放の立場からさらに突っ込んだインタビューがあっても良かったのではないかと思いました。僕は役人ですが、私人である家内は、「民放が広報に使われたというのは、何かやっぱりしっくりこない」と言います。民放は民放らしく、知事の希望をどうするかというときに、もう少し深く掘り下げたコメントがあって良かったという気はします。インタビューの選び方、これは重要だと思います。例えば知事の政策を支持する人たちであれば、全く県の広報に使われたとなります。希望は結構だと、では希望を実現するには岩手の現状でどうするか、まで掘り下げて欲しかったと思います。

人材が育っても県の外へ出てしまう。このときにどう定着させていくかというような問題は人材育成のところで掘り下げるべきです。定着率もどんどん減っています。産業を誘致しなければソフトを学んだ学生も全部出て行ってしまうのです。関東自動車があります、それ

から今度は東芝が出て来ます、これをどうしていくか。もっと具体的なプレゼンテーションがあって良いのではないかという気はします。

例えば、農業問題を根本的にどう考えるかという政策がなければ、希望が発展に繁栄に結びついていかないわけです。そういうところで本当の経済専門家がおれば、恐らくもっとおもしろい議論ができたんじゃないかと考えます。

山形県の藤ジニーさんではないですが、「知事は旅館のおかみ」、それでいいのかどうか。やはり本当に考えるならば、希望を現実の発展に結びつけるために、もっと考えている人が岩手県内にもいると思います。岩手大学だけではなくてほかの大学もありますから、そういう議論をできる人をインタビューに持ってきたほうが、もっと面白かったと思います。知事にとってもその方がもっと良かったと思います。私はそういう印象を持ちました。産学連携というのが、産業育成のテーマであるならば、企業との関係をもっと深く取り入れたほうが重みがあったのではないかという気がします。

岩手県にとって文化の発信というのは、日本のみならず世界に発信をしていく。それをかなりなされたと思いますけれども、もっと強く出していくべきではないかという気はします。

総合的に見れば、めんこいテレビがユニークな県の広報を取り上げられたということでは非常に評価したいと思います。

他にご意見等ございましたらどうぞ。

〇中原委員

委員長が今言われた部分を続編として番組を作り上げるというのも１つの手法です。ここまで出した以上は検証しなくてはならない。この『いわて希望大作戦』のプレゼンテーションが一体どうなったのかということを県民に知らせるというのは、この番組を取り上げた局としての一つの使命であると思いました。

委員長が言われたように、一つ一つの問題が余りにも深く、そして広いという現実を見ますと、やっぱりこれを追いかけていく必要があるということになります。そうすると、めんこいテレビのいい意味のしつこさというものがさらに評価されるのではないかと思いました。

〇菅原委員

私はこういうものに余り期待しないタイプです。世の中には不言実行という言葉もあります。ヒラリーとオバマの泥仕合はバカバカしいと思って私は見ています。この前にブッシュ

を選んだ国民ですからね。つまりああいう演説とかパフォーマンスとか述べたって、そうは問屋が卸さない。ですから、追跡調査すべきと言いましたが、その通りです。きれいごと言ったってそうは問屋が卸さない世の中ですから。

〇吉田ディレクター

岩手で生まれ、ずっと盛岡で育ってきた私自身が、どういう番組だったら見たいだろうと考えて番組制作にあたりました。県政に興味がなかった２０代後半の私が興味を持てるように作りたいと思って頑張りました。ただ、やっぱり出演なさるのが知事ということで、そこのバランスが非常に難しかった。私が分かる言葉にして、知事にしゃべってもらうと「何だ、知事はレベルが低いな」と思う方もやっぱりいらっしゃるかと思います。そういったところでのバランスを取ることに苦心いたしました。その結果、視聴対象がちょっと不明になってしまったのは反省点だったと思います。知事と２人の取材のときは「私に話しかけるように話してください」とか、知事の人柄が出るように取材させていただいたつもりですが、バランスをとるというのが非常に大変な作業でした。それでもお互いの妥協点がこのような番組の形になったということです。

早口だったというお話がありました。確かに私も３回目はちょっと早いかな、と思いました。１、２回目はゆっくり分かりやすく伝えるという意味で、私もゆっくりとした台本を書きました。普段の知事の話し方を尊重すると３回目のテンポになるということで今回、このような形となりました。

「希望」という文字は岩手で活躍している書家の高橋卓也君の作品を使わせていただきました。崩して書くと希望が叶わないと漢字の意味を考えての作品ということで、そういうイメージのものを１つ使用させていただきました。

〇谷口委員長

どうもありがとうございました。本日の番組審議会を終わらせていただきます。

〇事　務　局

今回の審議会の模様は、３月１５日（土）朝４時４２分から「めんこいテレビ番審リポート」として放送いたします。次回は、４月９日（水）を予定しております。本日はありがとうございました。